

PAT-NO: JP358161067A

(N)

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 58161067 A

TITLE: PRICE LEADING SYSTEM OF AUTOMATIC AUCTION
MACHINE

PUBN-DATE: September 24, 1983

INVENTOR- INFORMATION:

NAME

TAKAHASHI, TAKATSUGU
MAEJIMA, NOBUYUKI

ASSIGNEE- INFORMATION:

NAME	COUNTRY
TOUKIYOUTO CHIYUUKOSHIYA OROSHIURI	N/A
JIGIYOU KYODO KUMIAI	N/A
FUJITSU KIDEN LTD	

APPL-NO: JP57043781

APPL-DATE: March 19, 1982

INT-CL (IPC): G06F015/21, G07C013/00

US-CL-CURRENT: 705/37

ABSTRACT:

PURPOSE: To set a price flexibly and effectively, by providing a memory where a market price is stored, and comparing the market price and an auction price with each other, and raising the auction price until the auction price exceeds the market price.

CONSTITUTION: The market price calculated by a computer (CPU) 18 is applied to a switching circuit 21 of a price leading device 19 of an auction machine body 1, and this market price and the auction price inputted from an input

device 20 by an auctioneer are switched, and the market price is stored in a market price memory 22 and is displayed on a market price monitor 23. The auction price stored in an auction price memory 7 and the market price stored in the memory 22 are compared with each other in a comparing circuit 24; and when the market price exceeds the auction price, a gate 26 is turned off and a gate 25 is turned on by the output of the circuit 24. An adding circuit 10 is driven by the output of the gate 25, and a certain price is added to contents of the memory 7, and the result is stored in the memory 7 and is displayed on an electric lighting board 2. The auction price is raised until it exceeds the market price, thus setting the price flexibly and effectively.

COPYRIGHT: (C) 1983, JPO&Japio

⑯ 日本国特許庁 (JP) ⑯ 特許出願公開
⑰ 公開特許公報 (A) 昭58—161067

⑮ Int. Cl.³ 識別記号 庁内整理番号 ⑯ 公開 昭和58年(1983)9月24日
G 06 F 15/21 6619—5B
G 07 C 13/00 8109—3E 発明の数 1
審査請求 有

(全 4 頁)

⑯ 自動せり機の価格誘導方式

⑯ 特願 昭57—43781
⑯ 出願 昭57(1982)3月19日
⑯ 発明者 高橋隆次
東京都足立区大谷田4丁目9番
18号 東京都中古車卸売事業協同
組合内
⑯ 発明者 前島伸行

稻城市矢野口1776番地富士通機
電株式会社内
⑯ 出願人 東京都中古車卸売事業協同組合
東京都足立区大谷田4丁目9番
18号
⑯ 出願人 富士通機電株式会社
稻城市矢野口1776番地
⑯ 代理人 弁理士 松岡宏四郎

明細書

1. 発明の名称

自動せり機の価格誘導方式

2. 特許請求の範囲

販売希望価格を格納するメモリを有し、応札者が複数の場合せり価格を順次上昇させて、せりを行なう自動せり機において、市場価格を格納するメモリを設け、市場価格とせり価格を比較し、せり価格が市場価格以上になるまでは、せり価格の上昇を続けるようにしたことを特徴とする自動せり機の価格誘導方式。

3. 発明の詳細な説明

〔発明の技術分野〕

本発明は、自動せり機におけるせり価格の誘導に関するものである。

〔技術の背景〕

自動せり機においては、電光掲示盤に表示された価格に対し、出品された商品を買う意志があるか否かを応札印でセンター側の装置に通知し、複数の買手があれば価格を上昇してゆき、一人の買

手になったところで、買手の希望価格と比べそれより上か下かで落札、流れを決めている。

そして、この取引は迅速化が要求され、落札、流れの決定が速やかに行われるが、買手はせりの最初の段階(せりスタート直後)では応札せず、買手の予想する相場に近づいてから応札印を押し始めるケースが増えてきた。

そのため、買手の予想する相場に近づかないうちに応札者が一人となって、流れに至るケースが増えてきたことから、かかる買手、買手に対する不都合がないように、適切な価格の誘導が望まれるようになってきた。

〔従来技術と問題点〕

第1図は、従来の自動せり機を示したものであり、先ずせり機本体1において、せり開始前に、テンキーからなる入力装置4より販売希望価格を入力し、販売希望価格メモリ5にその価格を格納する。

この販売希望価格メモリ5に格納された内容は、希望価格モニター6に表示され、買手はこのモニ

...ター 6を見て希望価格が確認できる。一方、セリ
価格メモリ 17には、図示せざる計算機より、セ
リ商品の初期価格が格納されており、この初期価
格が電光掲示盤 2に表示されている。

この状態からスタートし、買手は端末機 3.1～3.8 のうち自己の使用する端末機の押印を押す(応札する)と、セリガ本体 1 では、端末印脱取回路 8 で押印の押下状態を検出する。この検出結果は、応札人数判断回路 9 に通知され、2 人以上の応札者があつたことが分ると、加算回路 10 を駆動し、セリガ格メモリ 7 の値に、予じめ決められた一定価格、例えば 1000 円を加算し、再びセリガ格メモリ 7 に格納する。そこで、電光掲示盤 2 もこの加算結果の価格を表示する。

この様にして順次、表示価格が上昇するが、押印を押す買手が一人になると、加算回路 10 は駆動されず電光掲示盤 2 の表示価格の上昇は停止する。

一方、この場合はコード番号読取回路 12 が応札人数判断回路 9 より駆動され、端末印読取回路

8を介して、押印押下中の端末はにはじめ差し込まれている買手の登録カードのコード番号を読み取る。この読み結果はコード番号メモリ13に一旦格納される。それと共に、応答人改判断回路9は、タイマ11を駆動する。そこでタイマ11は、一定時間(数秒程度)経過後、その出力信号によりゲート14、15を導通状態にする。

そこで、これらゲート 14, 15を介して、販売希望価格メモリ 5 の内容と、セリ価格メモリ 7 の内容が比較回路 16 に入力される。この比較回路 16 では入力された両価格の比較を行い、セリ価格が販売希望価格以上であれば、出力線 161 に信号を出し、登録回路 17 でそのときの商品名に対応して落札の旨登録すると共に、コード番号メモリ 13 の内容を登録する。

即ち、コード番号によって示される買手がどの商品を注文したかが登録される。これに対し、せり価格が販売希望価格より下であれば、出力記162に信号を出し、登録回数17ではそのときの商品名に対し流れの旨のみ登録される。

〔発明の実施例〕

本発明の一実施例を第2図に示す。

図中、第1図と同一符号は同一機能を示す。ここで、第1図と異なるのは価格誘導装置19を設けたことである。

即ち、計算機 18 では取扱い商品に関する最近の取引実績、例えばこの 2ヶ月間の取引実績を平均した市場価格を算定しておく。そして、価格誘導装置 19 の図示せざる切替スイッチの操作により、切替回路 21 を駆動し、市場価格メモリ 22 に計算機 18 からの市場価格を入力するか、或は、入力装置 20 からせり人のキー操作で予想される市場価格、若しくは販売希望価格を入力するかを選択する。入力された市場価格は市場価格メモリ 22 に格納されると共に、市場価格モニター 23 で表示され、せり人はその市場価格を確認することができる。

一方、市場価格メモリ 22 に格納された価格と、
せり機本体 1 のせり価格メモリ 7 に格納された価
格とは、比較回路 24 で比較されており、市場価格

がせり価格を上回る場合は、その比較回路 24 の出力でゲート 25 を導通状態とし、ゲート 26 を非導通状態とする。逆に、市場価格がせり価格以下であると、比較回路 24 の出力でゲート 25 を非導通状態とし、ゲート 26 を導通状態とする。そこで、成る商品のせりが進行し、応札者が一人以下になったとき、応札人數判断回路 9 からは出力線 91 に出力信号が現われるが、せり価格が市場価格以上でなければゲート 26 によりタイマ 11 やコード番号読取り回路 12 は駆動されない。ところが、ゲート 25 により加算回路 10 が駆動され、せり価格メモリ 7 の内容に一定価格加算された値が、せり価格メモリ 7 に格納されると共に、電光掲示盤 2 に表示される。この様にして、たとえ応札者が少數であっても市場価格まではせり価格が上昇する。

そこで、市場価格付近になって、多数の応札者が出れば、第1図と同様にして落札、流札が決まる。

又、市場価格になつても誰も応札しなければ、

加算回路、16, 24は比較回路、19は価格誘導装置、22は市場価格メモリである。

特開昭58-161067(3)
タイマ11が起動され、その商品に対し、コード番号なし、即ち、実質的には流札が登録回路17に登録される。

〔発明の効果〕

以上より明らかな様に、商品の市場相場に近づいたとき売札を始めようとしている場合に、その相場よりずい分下の価格で取引が終了することがなく、売手、買手双方にとって極めて有効なものである。

又、セリ商品に対し、どうしても販売希望価格まで買手の様子を見てほしいとの売手の要求があった場合、市場価格メモリにその値を入力するだけでよく、価格設定の融通性に富んだ極めて有効なものである。

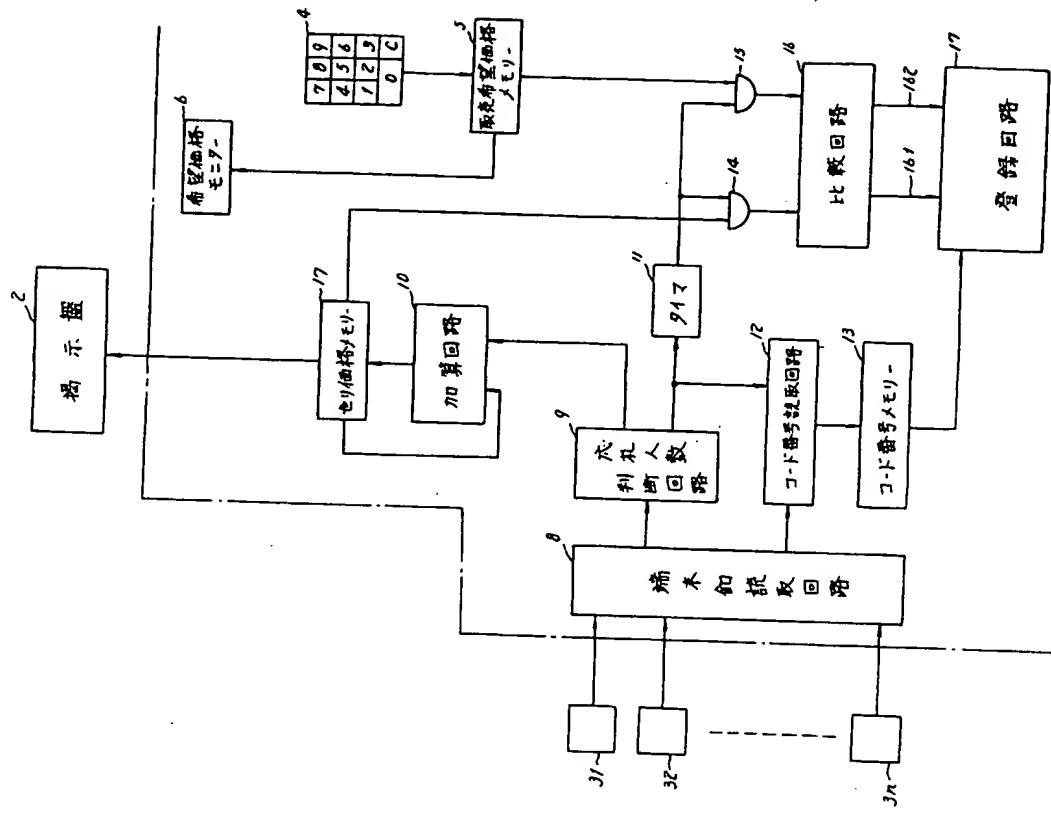
4. 図面の簡単な説明

第1図は従来例、第2図は本発明の一実施例である。

図中、1はせり機本体、2は電光掲示盤、31～3nは端末機、5は販売希望価格メモリ、7はせり価格メモリ、9は応札人數判断回路、10は

代理人 井理士 松岡 安四郎

第一回



第二回

